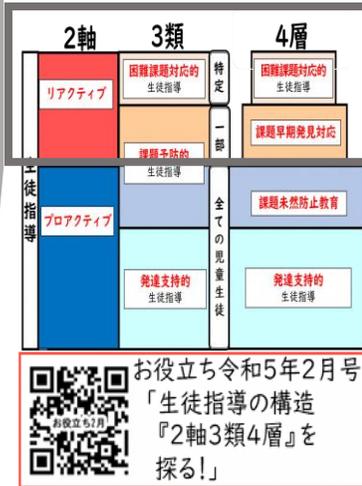


チーム学校による生徒指導体制～生徒指導と教育相談が一体となったチーム支援～

重層的支援構造モデル



リアクティブ 困難課題対応的生徒指導及び課題早期発見対応におけるチーム支援のプロセス

⑤点検・評価に基づくチーム支援の終結・継続
チーム支援計画で設定した目標の達成状況について、必要に応じて統括的評価を行う。

Point! 目標が達成されたと判断された場合はチーム支援を終結します。その際、有効な取組等をプロアクティブにおける支援につなげていくことが大切です。

①チーム支援の判断とアセスメントの実施
課題の解決に向け、校務分掌や学年を横断したチーム支援の必要性について検討する。

Point! アセスメントには多種多様な方法がありますが、その中でも様々な分野で活用されている方法として、「BPSモデル」を挙げることができます。
【BPSモデル】
生物(身体・健康面)・心理(心理面)・社会(社会・環境面)の3つの要因から実態を把握すると同時に、児童生徒自身のよさや課題解決に役立つ支援資源(人や機関等)を探る。

④チーム支援の実践
定期的にケース会議を開き、進捗状況を把握する。関係者間で情報を共有し、管理職に報告・連絡・相談をする。

Point! 管理職は、支援チームの活動状況を把握し、効果について評価した上で、適時適切な指示や助言をします。

②課題の明確化と具体的な目標の共有

Point! SCやSSW、特別支援教育主任と一緒に会議を行うと、それぞれの視点から課題が見え、支援の役割も明確になります。

③チーム支援計画の作成
何を目標に、誰がどこで、どのような支援をいつまでに行うかを記載し、支援チームを編成する。

プロアクティブ 課題未然防止教育・発達支持的生徒指導におけるチーム支援

当然ながら、プロアクティブにおいてもチーム支援が重要です。目標を立て、計画的なプロセスを進めるようにしましょう。

生徒指導

生徒指導提要 (令和4年12月)には、課題を抱えて苦戦したり、危機に陥ったりした児童生徒に対して、生徒指導と教育相談の連携を核に、多職種との協働も視野に入れた包括的な支援をチームとして展開するプロセスが示されています。
重層的支援構造モデルとの関連も併せて校内で共通理解を図りましょう。

